

農作物技術情報 第9号 畜産

発行日 平成30年 11月 29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

◆ 来年度に向けた施肥計画について

今年の牧草・飼料作物の収穫もほぼ終了し、皆さんのところの収量はいかがだったでしょうか？最近では資材が高騰しています。使った肥料が確実に牧草や飼料作物に効くように土壌診断に基づきpH矯正等を検討し、来年の収量や草質アップにつなげましょう。

施肥の効果を高めるために

土壌の化学性が悪化すると、作物は必要な養分を吸収できなくなり、生育が悪くなります。そのような場合、やがて作物の葉、茎、子実、根などに養分の過不足時特有の障害症状、いわゆる要素障害（栄養障害）が現れます。土壌分析によって土壌の状態を確認することは重要ですが、日頃からも作物の生育状態などをよく観察しておくことも大切です。

1 土壌診断に基づいた施肥計画

(1) 土壌診断のタイミング

作物別の土壌の採取方法は分析機関の指示に従って行います。

①同じ作物を続けて栽培している場合は、分析結果が同じ傾向を示すこと多いため、毎年の土壌診断は必要ありませんが、二～三年に一度は診断を受けましょう。

②土壌の採取は、収穫終了後から次作耕起前までに行います。

(2) 診断結果に基づいた施肥設計

土壌診断結果から過剰な養分は減らし、足りない養分は必要量を施用して適正施肥によって収量・品質の安定化と施肥コストの低減化を図りましょう。

2 肥料成分の吸収力を左右する土壌pHを改善しましょう。

pHは1～14の値で示される数値で、7程度を中性、7から小さくなるほど酸性、7より大きくなるほどアルカリ性となります。土壌の場合、一般的な適正值は6.5程度であり、6.0を下回ると酸性と呼ばれます。また、6.5～7.0以上になると作物の生育に必要な窒素、リンや微量元素が土壌中で溶解しにくくなり、欠乏することがあります(図1)。

草地や飼料畑が低pHになっていませんか。牧草や飼料作物の最適pHは表1のとおりです。

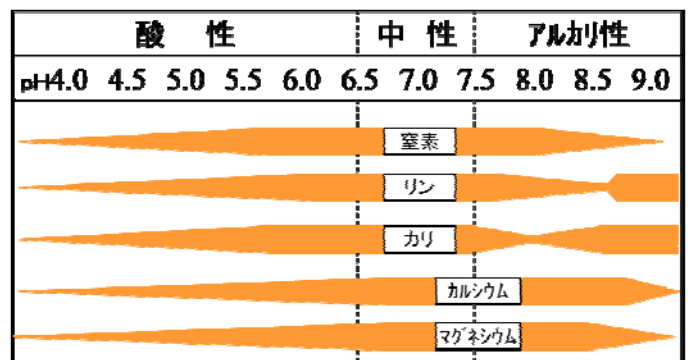


図1 土壌pHと肥料要素の溶解利用度

表1 土壌 pH の目標値 (岩手県牧草・飼料作物生産利用指針)

項目	飼料畑	牧草地
pH (H ₂ O)	6.0-6.5	6.0-6.5

酸性の土壌を改良するには、苦土石灰、炭酸カルシウムなどの石灰資材を用います。施用量については、土壌のタイプによっても違いますが、おおむね表2の施用量が目安です。また、土壌診断ソフトなどを活用して塩基飽和度から施用量を計算する場合があります。

牧草や飼料作物は養分の収奪量も大きく、また降雨により土壌中の養分が溶脱して pH が低下しやすいので、診断の結果 pH が適正であっても苦土石灰を年間 50 ~100kg/10a 施用するとよいでしょう。

表2 pH を 1 上昇させるための石灰量の目安 (kg/10a)

土壌の種類	炭酸カルシウム	苦土石灰
黒ボク土	300-400	280-380
沖積土・洪積土	180-220	170-210
砂質土	100-150	90-14

(加藤 1996)

農作物技術情報の本年度定期発行は今号で終了となりますが、気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。